

上宮寺通信

第十二号

お盆の由来

八月といえばお盆です(地域によっては七月にお盆を迎えるところもあります)。いまでは夏の長期休暇として旅行に出かけるといふ人も多いですが、古くからお盆には故郷に帰省し、お墓参りなどをしてご先祖様を偲ぶといふことが行われてきました。

お盆というのは時期を表す言葉と思われがちですが、この言葉はサンスクリット語(インドの古い言葉)の「ウランバーナ」から来ています。それが「孟蘭盆(うらぼん)」と漢訳され、「お盆」となりました。そして、その意味は「倒懸(とうけん)」「(逆

さまに吊るされたような苦しみ)になります。

なぜ、逆さまに吊るされたような苦しみが「お盆」の意味なのか。それは『仏説孟蘭盆経』というお経に説かれている物語に由来します。

お釈迦様のお弟子で目連尊者がおられます。この方は神通第一といわれ、神通力に長けている方でした。その神通力でもって、亡き母の姿を案じます。すると、神通力でもって見た母の姿は餓鬼の世界に落ちて苦しんでいるものでした。

その母の姿を見て、目連尊者は悲しみに打ちひしがれ苦しみに悶えます。なんとか母を救いたいと思ひ、食物を母のところへ運びますが、すべて燃えて灰と

なってしまうのです。どうにも母を救うことのできない目連尊者はお釈迦様のところへ行き尋ねます。

お釈迦様からは安居(あんご)の最後の日、たくさんの食物で仏や菩薩、僧に供養しなさいと教えられます。目連尊者はその通りにして、仏法僧の三宝の功德によって母を餓鬼の世界から救います。そして目連尊者自身も苦しみから救われたというのです。

この物語から先祖のことを思い供養するという日本のお盆の風習につながっていったのです。

よく浄土真宗のお盆は楽だといわれます。たしかに宗派によっては迎え火送り火を焚いた

り、お供え物もたくさん用意したりとたいへんなところもあります。用意のたいへんさで言えば楽かもしれませぬ。しかし、お盆を私たちのいたいた「いのち」の意味を問う機縁にさせてもらうということには、どこかの宗派でも変わりはありません。

※安居：雨季は地中から虫たちが出てくるので、その虫たちを踏み殺さないようにと外出せずに修行する時期のこと。安居の最後の日(旧暦の七月十五日)にあたるといわれる。



◆行事案内

上宮寺の行事

上宮寺講

8月はお休みです。

八事・上宮寺墓地 お盆法要

8月4日(日)

午前6時～9時

お盆(孟蘭盆会) 法要

8月13日(火)

午前9時～午後3時

8月14日(水)

午前9時～正午

場所：上宮寺本堂

※ご都合のつく時間にお参りください。

9月8日(日)

秋季彼岸会・永代経法要

時間：午前10時～午後一時半

法話：中村薫師

(一宮養蓮寺前住職)

※お斎(食事)がありません。

皆さまのご参詣・ご参加をお待ちしています。

その他の行事

御坊 夏まつり

8月24日(土)・25日(日)

午後5時～9時

場所：東別院境内

内容：盆踊り(両日)

テクノ法要(25日)

花火(25日)など

入場無料

◆話題あれこれ

○「おつとめのけいこ」も無事に終わることができました。子どもたちにとって夏休みのいい思い出になればいいと思います。

○お盆の法要を8月13日と14日に勤めます。上記の時間でしたらいつでもお参りにきていただけます。

○お盆が過ぎればすぐにお彼岸です。9月8日(日)に秋のお彼岸・永代経法要を勤めます。こちらもぜひお参りください。また、なにとぞご懇志のご協力もお願いいたします。

○法要のことなど仏事についてわからないことがありましたら、何でも気軽にお尋ねください。

【雑感】

夏休みが始まってすぐ、「おつとめのけいこ」がありました。今年で42回目を数え、上は中学一年生、下は三歳児までの総勢40名の参加がありました。この「おつとめのけいこ」の最終日はいつもみんなでご飯を食べます。「まぜごはん」なのですが、食欲旺盛な子供たちです。「おかわり！」の声があちこちで上がります。そうになると自然と何杯食べたかの競争に。10杯以上食べた！という子が何人もいました。この競争はボクが子ども頃も同じ。いつの時代も同じだなと懐かしく思い出されました。(住職記)

【発行】

真宗大谷派

上宮寺

昭和区白金一丁目十九番十五号

☎052・871・0547

